

学校だより

小川中学校

No. 1 2

平成26年 7月18日

文責：校長 佐藤正則

無遅刻連続40日に! 生活習慣が向上した1学期

71日間の1学期が終了しました。

1学期の成果は、生活習慣が向上したことです。これまで続かなかった無遅刻記録も、6月上旬から続いています。1, 2年生に至っては、1学期、まったく遅刻がありません。素晴らしいことです。2学期以降、どれだけ続くか楽しみです。

その他のよい面

- あいさつをしっかりとできる生徒が増えてきている。
- 服装や生活態度で大きな乱れはない。
- 授業を真剣に受けている生徒が多い。
- 家庭学習をする生徒が増え、時間も増えてきている。
- 係活動では、自主性が見られる。
- 集会時の態度がよくなっている。話の聞き方がよくなってきている。
- 無言清掃がよくできている。
- 朝の駅伝練習に取り組む生徒が多く、真剣さが増している。
- 自覚的なリーダーが育ってきている。



無言で清掃する生徒たち

課題

- アイコンタクトのあるあいさつができるようにする。
- 忘れ物をなくす。
- 係活動で創意性を育てる。
- 読書習慣を高める。
- 乱暴な言葉使いをなくす。
- 思いやりの心を一層育てる。
- 家庭学習の質を向上させる。
- 清掃前後の整列完了時間を短くする。



【Yes、I can.】積極的な挑戦の夏休みに

学校では、37日間の夏休みを、病気になったり、事故にあったり、起こすことなく有意義に過ごしてほしいと考え、指導しました。

3年生は、「夏を制するものは受験を制す」のごとく、受験モードに切り替えることがポイントです。1, 2年生は、勉強と部活動で心身を一層鍛えましょう。全学年とも、読書に励みましょう。夏休みに10冊を目標に読んでみてほしいと思います。

また、学校から出されている課題と共に、各種のコンクールへも積極的に挑戦してほしいです。絵画や詩歌、書写など実に様々な募集が来ています。「数打ちゃ当たる」ではありませんが、質と共に量も大切。挑戦することで、これまで見えなかったことがいろいろ見えてきます。

夏休みは、自己管理の差によって、休み後に大きな差が出ます。24時間をどのように使うか、「やりたいこと」と「やらなければならないこと」を上手く組み合わせ充実させてほしいです。

お忙しい中、
授業参観に出席いただき、
ありがとうございました。

いじめを 방지、より良い人間関係を育てる指導に生かすことを目的に、現在の集団の問題傾向を把握するための生活アンケートを無記名で実施しました。

下の表は、その結果です。回答方法は、1, 2については、4段階で、3~19は〇×です。

集計結果は、1, 2については、1は、「楽しい、どちらかという楽しい」の合計、2は、「たくさんいる、いる方である」の合計、3~19は、「〇」の回答です。すべて、パーセントで表しています。

生活アンケート集計結果

平成26年6月下旬実施

		学校全体	1年生	2年生	3年生
1	学校生活は楽しいですか。	89	94	85	87
2	仲のよい友だちはいますか。	94	92	94	94
3	朝からお腹が痛かったり、頭が痛かったりする日がある。	42	40	40	44
4	自分の持ち物がなくなったり、壊れたりしていることがある。	13	12	25	6
5	自分の名前が落書きされていることがある。	1	0	0	1
6	友だちにお金を貸したり、あげたりすることがある。	15	10	19	15
7	話しかけた時に無視されることがある。	12	13	21	6
8	間違ったり失敗すると、友だちに笑われることがある。	36	21	38	46
9	遊びに加えてもらえないことがある。	5	4	10	1
10	友だちから係や掃除の仕事を押しつけられることがある。	4	4	0	7
11	「気持ちが悪い」という意味のことを言われることがある。	16	6	25	17
12	友だちから悪口を言われることがある。	23	17	35	18
13	友だちからたたかれたり、蹴られたりすることがある。	19	10	25	23
14	掃除の時は楽な仕事しかないことがある。	11	4	10	15
15	人のものを勝手に使うことがある。	12	4	17	15
16	友だちのお金や物を借りたままにしていることがある。	2	0	6	0
17	友だちをからかうことがある。	48	31	52	58
18	汚い言葉を使うことがある。	43	29	54	45
19	誰か決まった人を遊びに加えないことがある。	2	2	4	0

表中の囲み数字は、注目したい数字を示しています。

「1, 2」については、ますますと判断します。100%が最終目標ですが、当面はどれも90%を超えることを目標とします。

「3~19」は、問題傾向を示しています。「3」は、原因をすべて学校生活に起因するものとは断じられませんが、学校としては、「学校に起因すること」と考え、この数字を減らせるように取り組みたいと考えています。

この数字を減らす上での指導方向を示すのが、「4~19」です。囲み数字で表した、「8, 17, 18」が、どの学年にも共通する問題点と考えられます。こちら辺が、本校の主たるいじめの温床にもなっていると考えています。学年によっても特徴がありますので、2学期は、こうした項目を重点とした指導を、学級活動、道徳、日常的な指導、教科内での指導などを通じて進めます。

ご家庭でも、ぜひ話題としていただき、子どもたちへご助言をお願いします。

